

■ 序 文

近年、産婦人科疾患におけるMRIを中心とした画像診断の役割は、多くの臨床医に認知される場所となり、臨床において不可欠の検査法となっている。そのMRIの成書としては、古くは1990年に刊行され歴史的名著の誉れの高い富樫かおり先生の『婦人科疾患のMRI診断』（医学書院）、2004年に刊行された今岡いずみ先生、田中優美子先生の『婦人科MRIアトラス』（学研メディカル秀潤社）、最近では、田中優美子先生の『産婦人科の画像診断』（金原出版、2014年）などが有名であるが、これらの本は基本的に疾患ベースで記載されている。

ところが、実際の臨床では、往々にして全く異なった疾患が類似の所見を呈し、鑑別診断に苦慮することがある。病理の結果を聞いて、思わぬ疾患であったことが判明することも少なくない。そのため、画像診断においては鑑別診断を列挙するというのは非常に重要である。欧米における放射線診断学の教育では、鑑別診断が非常に重視され、レジデントは必死に暗記していると聞く。

しかし、産婦人科の疾患では、まだ画像診断としての歴史が浅いためか、国内外に成書として鑑別診断をメインに取り上げた本はなく、そのような本が欲しいと感じていたのは、私だけではないと思う。

そこで、本企画では産婦人科領域のMRIを中心に39項目を抽出し、この領域のエキスパートの先生方に、その豊富な経験を照らし合わせ、特定の所見に対する鑑別診断について執筆していただいた。類書のほとんどない中、先生方には素晴らしい内容の原稿を執筆していただいたことを心より感謝する。本書が、画像診断医の日常臨床に大いに役立つものと確信している。

最後に、本書の企画・編集に尽力してくれた学研メディカル秀潤社 画像診断編集室の皆さんに心より御礼を申し上げる。

2017年7月

熊本大学大学院 生命科学研究部 放射線診断学分野

山下 康行